

茨城県農産物販売推進東京本部情報

平成29年 11月

1 東京都中央卸売市場（平成29年1～10月）の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は164.9万tで、前年比3%増、金額は4,597億円で前年比4%減となった。
- ② 茨城県産の入荷量は18.4万tで、前年比4%増、金額は472億円で前年比6%減となった。
 (金額の内訳は、野菜389億円、果実83億円。前年同期比で野菜7%減、果実1%増、平年同期比で野菜6%増、果実8%増)
 →金額が【増加】した品目(前年対比)：はくさい(144%)、にら(105%)、幸水(109%)、豊水(112%)
 →金額が【減少】した品目(前年対比)：レタス類(64%)、きゅうり(80%)、トマト(90%)、れんこん(88%)
- ③ 茨城県の1～10月計の青果物入荷量は前年比105%(シェア11.2%)、取扱金額は同106%(シェア10.3%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1～10月計)			
	1～10月計	年間計	年間比	1～10月計	年間計	年間比	千葉	北海道	青森	
数量	H29	1,648,587		183,944	←シェア(11.2%)		10.5%	11.4%	5.8%	
	H28	1,604,304	1,956,079	82.0	177,625	229,650	77.3	11.0%	11.1%	6.1%
	(前年比)	103			104	シェア(11.1%)				
	平年値※	1,651,185	2,013,667	82.0	175,851	226,294	77.7			
	(平年比)	100			105	シェア(10.6%)				
金額	H29	459,665		47,193	←シェア(10.3%)		7.8%	6.2%	5.9%	
	H28	478,087	586,489	81.5	50,227	61,743	81.3	7.7%	6.7%	6.3%
	(前年比)	96			94	シェア(10.5%)				
	平年値※	448,550	528,369	84.9	44,503	53,617	83.0			
	(平年比)	102			106	シェア(9.9%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成24～28年の5ヵ年平均。

※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》

平成28年実績
(1～12月計)

茨城県：金額シェア(10.5%)、数量シェア(11.7%)
 千葉県：金額シェア(8.0%)、数量シェア(11.5%)
 北海道：金額シェア(6.4%)、数量シェア(11.2%)

2 東京都中央卸売市場（平成29年10月単月）の茨城県産青果物主要品目の取扱高

()内は前年対比

野菜類の入荷量は約1万9千トン(119%)、単価は197円(53%)、金額は約38億円(63%)

果実類の入荷量は約1千トン(129%)、単価は418円(85%)、金額は約4.2億円(109%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成24～28年同月の5ヵ年平均値との比率

	品目	数量(t)				単価(円/kg)				金額(千円)		
		前年比%	平年比	※平年比(全国比)		前年比%	平年比	※平年比(全国比)		前年比%	平年比	
野菜	レタス	4,225	136	97	101	106	32	57	51	448,274	43	61
	ピーマン	1,174	119	99	98	319	54	89	87	374,146	64	91
	れんこん	794	98	82	84	430	77	108	108	341,338	76	91
	トマト	839	128	89	98	344	71	89	87	288,227	91	81
	野菜類計	19,428	119	106	99	197	53	79	87	3,835,689	63	86
果実	くり類	346	158	86	89	718	74	121	120	248,495	117	116
	果実類計	1,010	129	89	94	418	85	110	109	422,218	109	104

(野菜)

- ・ **レタス** 茨城県産レタスは、9月下旬～10月上旬の気温高により生育、肥大ともやや前進気味で良好であったことから、入荷量は作柄が悪かった前年を上回り、前年比136%、平年比97%であった。市場全体では、西南暖地以西からの入荷量が減少した一方で、長野(同181%)、栃木(同146%)、群馬(同394%)等の他産地も作柄良好で大玉傾向であったため、平年比101%と平年を上回った。単価は、各産地からの入荷量が多く、かつ8,9月の長雨による品質低下も多かったことから、茨城県産は前年比32%、平年比57%、金額は前年比43%、平年比61%であった。
- ・ **ピーマン** 茨城県産ピーマンは、9月の天候回復に伴い、樹勢、着果量とも安定し、入荷量は前年比119%、平年比99%であった。市場全体では、東北産の切り上がりが早まり、西南暖地以西の後続産地が、9月下旬の天候不良により生育、肥大がやや停滞気味であったことから、平年比98%と平年を下回った。単価は、市場全体では入荷量が潤沢な状況が続いたことから、安値基調となり、茨城県産は前年比54%、平年比89%、金額は、前年比64%、平年比91%であった。
- ・ **れんこん** 茨城県産れんこんは、8月の曇雨天の影響により分枝数や肥大が抑制され、作柄がやや不良であることから、入荷量は前年比98%、平年比82%と少なく、市場全体でも、平年比84%と少なかった。単価は、高値であった前年を下回るものの、入荷量が少ないことから平年を上回り、前年比77%、平年比108%、金額は、前年比76%、平年比91%であった。
- ・ **トマト** 茨城県産トマトは、8月の曇雨天の影響により下段の着果、肥大が抑制気味であったため、終盤時期まで樹勢が維持され、天候回復も伴い着果・肥大とも良好であったことから前年比128%、平年比89%であった。市場全体では、西南暖地以西の産地のピークが11月にずれこんだため、平年比98%と平年を下回ったにもかかわらず、単価は前年比71%、平年比89%、金額は、前年比91%、平年比81%であった。

(果実類)

- ・ **くり類** 茨城県産くりは、昨年の台風の影響による結果枝の損失等から、作柄は平年を下回り、入荷量は、極端に少なかった前年を上回ったものの、前年比158%、平年比86%と平年を下回った。このため、市場全体でも、平年比89%と少なかった。昨年、今年と品薄が続いたことから、単価は、高騰した前年を下回ったものの、前年比74%、平年比121%と、平年を上回る高値基調となり、金額は、前年比117%、平年比116%であった。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績及び東京青果物情報センター速報値を基に算出